

藤木小だより

学校教育目標 自ら学び思いやりのある
たくましい子どもの育成
子ども像 自ら学ぶ子ども
思いやりのある子ども
たくましい子ども

ゆうかり：6名 1年:36名 2年:41名 3年:43名

文責 校長 大竹 ひとみ TEL791-2731 4年:38名 5年:44名 6年:43名 合計251名

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

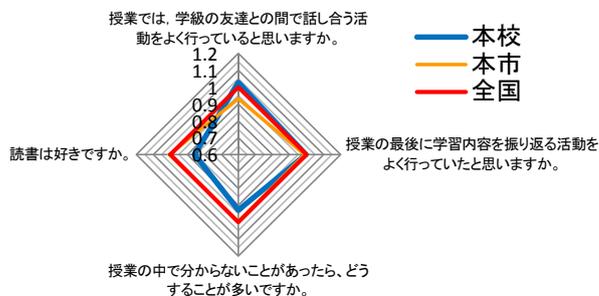
① 学力調査結果と分析

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	学力の状況
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回っていた。漢字を読む力や表現の工夫をとらえる力は、全国平均と同程度の力が育っていた。 漢字を書く力や文の構成を理解する力が不十分である。言葉や文の基礎的な力を育成する必要がある。 	全国平均正答率との比較
		下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均を下回っていた。要旨や表現の工夫を書くことは、よくできていた。 目的や意図に応じた適切なものを選択する問題に課題がある。 	全国平均正答率との比較
		下回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていた。立体の辺や面の位置関係はよく理解できていた。 小数の減法の問題に誤答率が多く、数の仕組みの理解を徹底し、計算練習に取り組む必要がある。 	全国平均正答率との比較
		下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていた。応用問題にも粘り強く取り組めるようになり、計算領域の考える力が高まってきた。 図形の性質の理解や求積の仕方の理解が不十分であり、応用ができていなかった。 	全国平均正答率との比較
		下回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率を下回っていたが、実験・観察の仕方などについては、よく理解できている内容があった。 実験器具の名称を覚えるなどの基礎的な理解を高めるとともに、実験・観察結果を考察する力を高める必要がある。 	全国平均正答率との比較
		下回っている

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

- 話し合う活動を積極的に学習に取り入れたことで、児童の学習意欲の高まりがみられるようになった。
- 授業で分からないときは、その場で質問するという児童が多く、児童が主体的に学習できる環境であると考えられる。
- 授業の始めにめあてを明確にし、授業の終わりに学習内容を振り返る活動がきちんと位置付いている。より振り返りに力を入れることで、学習内容の理解の確実な定着を図っていく。
- 読書が好きという児童が少ない。文章の内容理解が苦手であることにつながると考えられる。読書を奨励したり、文章のまとめりや内容を理解しながら読むように指導したりしていく必要がある。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

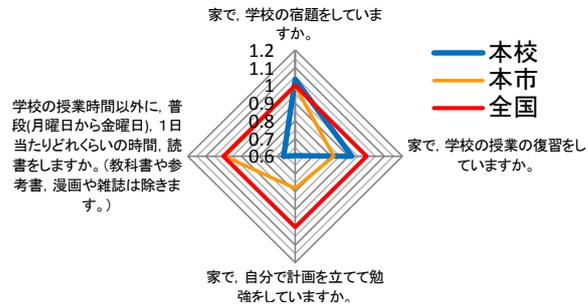


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・学校の宿題をしている児童は多いが、学校の授業の復習をしている児童が少ない。また、自分で計画を立てて勉強している児童は、全国平均よりかなり少なく、あまりしていない・していないと答えた児童が半分以上おり、主体的に家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせる必要がある。
- ・2時間以上読書をする児童が多くいる反面、全くしない児童も多く、読書タイムなどの取組を家庭にも発展させていく必要がある。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・ほとんどの児童が学校のきまりを守って学校生活を送っており、学校に行くのが楽しいと答えている。落ち着いた学校生活を送ることができている。
- ・一日に3時間以上テレビ等にふれている児童が60%を超えている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・朝の学習の音読(火曜日)・視写(木曜日)・漢字練習(金曜日)を継続することで、基礎的な学力の定着及び向上を図る。
- ・朝自習の読書だけでなく、児童同士で本を紹介し合うなどの取組を行う。また、図書委員会を中心として、読書を推進する行事を行う。
- ・各時間毎にめあて、まとめを板書し(児童にはノートに書かせ)、1時間の学習の目的を意識しながら学習に取り組むようにさせる。また、授業の終わりに学習内容をしっかり振り返る時間をもち、1時間毎の学習内容を確実に理解させる授業を行う。
- ・児童が自分の考えを発表したり意見を交流し合ったりする場を多く設定することで、主体的に学習に取り組む態度を育てるとともに、自分の考えをまとめたり、友達の意見の内容を聞き取ったりする力を高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・毎月のノーテレビ・ノーゲームの日、読書の日の広報活動を行うことで、家庭での時間の使い方について検討し実践するよう啓発する。
- ・学校通信、保健だより、食育だよりなどを通して、健康的な生活を児童が送れるように保護者に呼びかける。「早寝・早起き・朝ごはん・読書」の取組についても、夏季休業期間中だけではなく、継続的に呼びかけを行う。
- ・学校通信等を通して、小中連携で作成した家庭学習の手引きや家庭学習チャレンジブックの活用を啓発する。また、学級活動の時間などに家庭学習の手引きや家庭学習チャレンジブックを活用しながら、家庭学習の時間や学習の仕方について指導及び支援を行い、自ら学ぶ力を身に付けさせる。